

平成 29 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

大阪市立大桐中学校

平成 30 年 3 月 19 日

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- (1) 学期毎にいじめのアンケートを実施し、教育相談の取り組みを行った結果、平成 28 年度はいじめ認知件数 8 件に対し、全てを解消することができた。
- (2) 暴力行為の発生件数は、平成 27 年度の 18 件に対して平成 28 年度は 6 件減少し 12 件だった。
- (3) 不登校生徒数は、平成 27 年度 24 人に対して平成 28 年度も 24 人のままであった。
- (4) 昨年度、PTA および PTA の OB・OG 会のご協力をいただき校内に防犯カメラ 4 台の設置を行った。以前は深夜の校内侵入形跡があったが、カメラ設置後、発生しておらず、未然防止に役立っている。
- (5) 全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」について、肯定的に回答する生徒の割合が平成 27 年度より 8.2 ポイント高く 83.6% となった。
- (6) 全国学力・学習状況調査における「学校のきまり、規則を守っている」について肯定的に回答する生徒の割合が平成 27 年度より 9.5 ポイント高く 95.8% となった。
- (7) 平成 28 年度から ICT 機器を活用したアクティブラーニングの授業を推進した結果、40% の教員が授業に取り入れ、生徒の主体的な活動が増え、興味関心が高まった。環境面においてもプロジェクタ一天井設置を 5 つの普通教室で完了した。
- (8) 外部テストにおいて、6 月に実施した 3 年生チャレンジテストの英語で大阪市平均を 0.1 点上回るなど、以前と比較すると市平均点レベルに近づきつつあるが、年度目標としていた市平均点レベルの達成とはならなかった。
- (9) 全国学力・学習状況調査および第 18 次共同研究のアンケート結果から全国平均と比較し大幅に「自宅学習の時間の不足」と「スマホをはじめとする情報機器の利用時間が長い」ということが明らかとなった。（課題）
- (10) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が全国平均値と比較し、男子 -4.4 点、女子 -3.3 点であった。男子は 9 種目すべて、女子は 8 種目において全国平均値と比較し低い結果となった。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- (1) 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100% にする。
- (2) 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合について 95% 以上を維持する。
- (3) 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 90% 以上にする。
- (4) 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、安全・安心な学校づくりによく努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 90% 以上にする。
- (5) 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、家庭・地域に開かれた取り組みをよく行っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 85% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- (1) 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間より少ない」と答える生徒の割合を、平成 28 年度 (43.9%) より 5 ポイント以上減少させる。
- (2) 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の項目について、「2 時間以上」と回答する生徒の割合を、平成 28 年度 (44.5%) より 10 ポイント以上減少させる。
- (3) 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点において、男女ともに全国平均値を上まわる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- (1) 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100% で維持する。
- (2) 平成 29 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。
- (3) 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度 (3 人) より減少させる。
- (4) 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度 (5 人) より減少させる。

学校園の年度目標

- (1) 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 85% 以上にする。
- (2) 平成 29 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、安全・安心な学校づくりによく努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 85% 以上にする。
- (3) 平成 29 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、家庭・地域に開かれた取り組みをよく行っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 80% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- (1) 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度 (95.5) より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと)
- (2) 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 4 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度 (2 年 26.8%、3 年 27.3%) より 3 ポイント減少以上させる。
- (3) 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 8 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度 (2 年 12.9%、3 年 7.7%) より 3 ポイント以上増加させる。
- (4) 平成 29 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度 (63.4%) より増加させる。
- (5) 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 20m シャトルランの平均の記録を、前年度 (男子 74.32、女子 54.92) より 3 ポイント以上向上させる。

学校園の年度目標

- (1) 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間より少ない」と答える生徒の割合を、平成 28 年度 (43.9%) より 2 ポイント以上減少させる。
- (2) 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の項目について、「2 時間以上」と回答する生徒の割合を、平成 28 年度 (44.5%) より 3 ポイント以上減少させる。
- (3) 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点において男女ともに 8 種目中 2 種目以上で全国平均値を上まわる。

3 本年度の自己評価結果の総括

二つの最重要目標「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」の年度目標 7 項目に対して、5 項目で目標を達成することができた。また「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」では年度目標 8 項目に対して、4 項目で目標を達成することができた。

特に学校のルールを守ることに関しては、アンケート結果からも極めて高い規範意識が根付いており高く評価できる。また、学力の面でも経年比較において伸びを示しており、普段の落ち着いた環境での授業の成果と言える。

一方、不登校生に関しては、減少させることができず課題を残した。「魅力ある学校づくり」を目指すとともに個々の課題克服へ向けて「生徒理解・教育支援シート」の活用などを通して学校全体で不登校生の減少に取り組んでいく。また、全国体力・運動能力、運動習慣調査における実技の結果については、大きな課題を残した。体力づくりアクションプランの見直しを行い、効果的なアクションプランの策定を学校全体で行っていく必要がある。

大阪市立大桐中学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標	
(1) 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100% で維持する。	B
(2) 平成 29 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。	A
(3) 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度（3 人）より減少させる。	B
(4) 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度（5 人）より減少させる。	C
学校園の年度目標	
(1) 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 85% 以上にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめのない学校づくりを行う。	
指標 ・いじめアンケートを年 3 回以上、教育相談を年 2 回以上実施し、認知したいじめについて 100% 解消する。	B
取組内容② 【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 教育目標「人にやさしい学校づくりに努める」「個性のちがいを認め思いやりの心を育てる」の達成のため、生徒情報に関して連絡・報告・相談の徹底を図る。	B
指標 ・いじめ、不登校、支援生徒対策委員会を年 10 回以上開催する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートにおける認知件数は、1 学期 0 件、2 学期 6 件、3 学期 6 件であった。認知したいじめのすべてが解消されている。 ・毎月の職員会議後に「いじめ・不登校・支援生徒対策委員会」を開催し、全教職員で情報共有を行い、生活指導に役立てている。 ・「学校のきまり、規則を守っていますか」の項目について、全国学力・学習状況調査において「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答えた割合は 94.5% で目標値(90% 以上)を 4.5 ポイント上回った。2 月に実施した全校調査では、96.3% で目標値(90% 以上)を 6.3 ポイント上回った。 ・暴力行為（生徒間）を複数回行った加害生徒数は 2 人（目標値 3 人未満）であった。 	

- ・新たに不登校になる生徒は8人（1年5人、2年3人、3年0人）（目標値5人未満）であった。
- ・全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合は、78.6%で目標値(85%以上)を6.4ポイント下回った。

今後への改善点

- ・いじめアンケートで認知したものについて、すべて解消している。今後もいじめのない学校づくりに努力していく。
- ・「いじめ・不登校・支援生徒対策委員会」において、情報共有に加えて、課題改善へ向けての提案なども積極的に行っていきたい。
- ・「学校に行くのは楽しい」の項目について、目標(85%以上)に達しなかった。「主体的・対話的で深い学び」を推進し、魅力ある学校づくりを行っていく。

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 学校園の年度目標 (2) 平成29年度末の保護者アンケートにおける「学校は、安全・安心な学校づくりによく努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を85%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 本校の伝統行事である体育大会における組体操での怪我や事故の未然防止に取り組む。練習および当日での十分な補助、マットを敷く等の安全対策を確実に行う。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会の取り組みが始まる前に教職員全員を対象にした安全対策研修を行う。 ・外科理由での9月の保健室来室者数を昨年度より10%以上減らす。（目標値59人以下） 	C
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 部活動での怪我や事故の未然防止に取り組む。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・部活動顧問会を年2回以上開催し、大阪市部活動方針～プレイヤーズファースト～を徹底し、安全対策について協議する。 ・部活動中の事故災害を10%減らす。（目標値22人以下） 	C
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 修学旅行・一泊移住において安全を第一に万全の態勢で臨む。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行では「発達障がいサポーター」、一泊移住では「発達障がいサポーター」と「看護師」も付添うことで、安全安心の体制を充実させる。 ・泊行事において事故災害（病院への受診）を0にする。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「学校は、安全・安心な学校づくりによく努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合は、93.0%で目標値(85%以上)を8.0ポイント上回った。 ・外科理由での9月の保健室来室者数は、131人で昨年度から倍増で目標値(59人以下)を大きく下回った。うち1人は骨折であった。また内科理由での9月の保健室来室者数も128人と多く、詳しい状況の確認が必要である。 ・部活動中の事故災害は、50人で昨年度から倍増となり、目標値(22人以下)を大きく下回った。部活動顧問会で安全対策についての協議を深めていく。 ・修学旅行において、体調不良者が出了た。大事には至らなかったが救急搬送も1件あった。 ・一泊移住においては、大きなかがや事故もなく安全に終えることができた。 	
今後への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・外科理由での9月の保健室来室者数がたいへん多く、目標値(59人以下)を大きく下回った。 ・9月については、体育大会の練習に関わっての来室が多くかったが、そのほとんどは軽いものであった。十分に安全対策を施してきたが、体育大会実行委員会を中心に更なる改善を行っていく。 ・次年度から9月を「健康・安全啓発強化月間」とし、毎週の全校集会での啓発、保健委員会によるポスター作成など健康・安全管理の強化に努める。 ・一泊移住で初めて看護師を派遣したが、たいへん良かった。来年度以降も予算の確保をしていきたい。 	

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>(3) 平成29年度末の保護者アンケートにおける「学校は、家庭・地域に開かれた取り組みをよく行っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>文化鑑賞会・芸術鑑賞において保護者・地域の方に様々な形で参加していただけよう工夫する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、PTA作品の出品数を平成28年度より増加させる。(目標値21作品以上) ・文化鑑賞会・芸術鑑賞において保護者・地域の方の来校者数を平成28年度より増加させる。(目標値110人以上) 	B

取組内容②【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】
大桐中学校のことがわかる冊子「大中ナビ」を教職員・保護者・生徒・地域の方が制作を通して大桐中学校の伝統を受け継ぐ。

指標

- ・「大中ナビ」研修会を年1回、大中ナビの会を年2回開催する。
- ・教職員、保護者、生徒、地域の四者が関わり制作する。

C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・地域、PTA作品の出品数は、14作品であった。
- ・文化鑑賞会・芸術鑑賞において、保護者・地域の方の来校者数は142人であった。
- ・4月に大中ナビ研修会を実施した。
- ・大中ナビの冊子について、ガイドブック編は予定通り4月に発行したが、本編の発行が遅れている。

今後への改善点

- ・文化鑑賞会・芸術鑑賞での保護者・地域の方の来校者数は目標値(110人以上)を上回った。しかし、地域の方の出展作品数は、昨年(21作品)よりも少なかった。今後も開かれた学校づくりを行っていく。
- ・文化鑑賞会・芸術鑑賞での保護者アンケート(回収数16枚)において、100%肯定的な意見であった。
- ・大中ナビについては、役割分担等を見直し、次年度、新組織体制を構築し、スムーズな運営を行っていく。

達成
状況

年度目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- (1) 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度(95.5)より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと)
- (2) 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率4割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度(2年26.8%、3年27.3%)より3ポイント以上減少させる。
- (3) 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率8割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度(2年12.9%、3年7.7%)より3ポイント以上増加させる。
- (4) 平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度(63.4%)より増加させる。

B

B

A

A

学校園の年度目標

- (1) 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1時間より少ない」と答える生徒の割合を、平成28年度(43.9%)より2ポイント以上減少させる。

A

(2) 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の項目について、「2 時間以上」と回答する生徒の割合を、平成 28 年度(44.5%) より 3 ポイント以上減少させる。	A
---	---

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ICT 機器を活用したアクティブラーニングを取り入れた授業を積極的に行い、学習への意欲を高めさせる。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業において ICT 機器を活用した授業を全教員の半数以上が行う。 ・アクティブラーニング研修会および ICT 研修会を年 2 回以上行う。 取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学力 UP コラボレーター、学びサポートー、特別支援教育サポートー、発達障がいサポートー、元気アップコーディネーターを活用しての学力向上支援を図る。	A

取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 自宅学習、質問教室等自発的な学習活動の啓発に取り組む。	C
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会による「自宅学習時間の増加」「スマホ等の利用時間の短縮」啓発活動を様々な形で年 5 回行う。 ・保護者に対して「自宅学習時間の増加」「スマホ等の利用時間の短縮」へ向けての呼びかけを年 3 回行う。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテストにおける標準化得点（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと）は、96.0 で目標値(95.5 以上)を上回った。 ・チャレンジテストにおける正答率 4 割以下は、2 年生 22.4% で目標(23.8% 以下)を達成したが、3 年生 27.1% で昨年度より微減であったが目標値(24.3% 以下)には達しなかった。 ・チャレンジテストにおける正答率 8 割以上は、2 年生 16.8%、3 年生 11.5% で目標値(2 年生 15.9% 以上、3 年生 10.7% 以上)を上回った。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」について、肯定的に回答する生徒の割合は 85.5% で目標値(63.4% 以上)を大きく上回った。

- ・全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間より少ない」と答える生徒の割合は 38.5% で目標値(41.9%以下)を 3.4 ポイント上回った。
- ・全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の項目について、「2 時間以上」と回答する生徒の割合は 36.6% で目標値(41.5%以下)を 4.9 ポイント上回った。
- ・学力 UP コラボレーター等を活用し、放課後学習会を 67 回開催し、目標(10 回以上)を大きく上回った。
- ・元気アップ事業として学生ボランティアによる 3 年生学習会を 8 月下旬に 4 日間開催した。学生の確保が難しく人数が少ないことが課題である。
- ・「自宅学習時間の増加」「スマホ等の利用時間の短縮」啓発活動を生徒会新聞で行った。
- ・「自宅学習時間の増加」「スマホ等の利用時間の短縮」へ向けての呼びかけを生徒には行ったが、保護者にまではできなかった。

今後への改善点

- ・「自宅学習時間の増加」「スマホ等の利用時間の短縮」等、目標値(41.9%以下、41.5%以下)を上回ることができたが、今後は保護者に対して、具体的な数値などを示し啓発活動を切れ目なく行っていく。
- ・放課後学習会について、今後は内容の充実を工夫していきたい。
- ・加速している ICT 機器活用率をさらに加速させ、スタンダード化を目指していく。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業実践の充実へ向け、さらに研修を深め取り組んでいく。
- ・学生ボランティア等の学生の確保へ向け、大学との連携を強化していく。
- ・今年度は、サポートー等による授業への入り込みの拡大ができたが、次年度は更に充実させるため、地域人材確保を行っていく。

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>(5) 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 20m シャトルランの平均の記録を、前年度（男子 74.32、女子 54.92）より 3 ポイント以上向上させる。</p>	C
<p>学校園の年度目標</p> <p>(3) 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点において男女ともに 8 種目中 2 種目以上で全国平均値を上まわる。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 保健体育科の授業で基礎体力向上に努める。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科の授業において準備運動と合わせて補強運動を毎時間行っていく。 ・マット運動、陸上、柔道において、タブレットを活用し、フォームチェックを行うことで効果的な授業を開展していく。 	B
取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 保健体育科の授業のみではなく教育活動全般にわたり体力向上の推進を図る。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会、球技大会、マラソン大会、水泳大会等の体育的行事の見学者を5%以下にする。 ・部活動部長会を年3回以上行い、生徒の自発的活動のもと体力向上へ向けての啓発活動を行う。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣調査における20mシャトルランの平均の記録について、前年度と比較し男女ともに4.41ポイント下回った。 ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において、女子ハンドボール投げのみ全国平均を上回ったが、それ以外はすべて下回った。 ・保健体育の授業において21時間タブレットを使用し効果的な授業開展を行った。 ・体育大会、球技大会(3年のみ実施済み)での見学者は、1%未満であったが、水泳大会では6%、マラソン大会では4.4%であった。 ・部活動部長会を10回開催し、生徒の自発的活動のもと部活動の運営が行われている。 	
今後への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果を受けて、体力づくりアクションプランの見直しを行い、効果的なアクションプランの策定を学校全体で行っていく。 ・水泳大会での見学者の減少へ向けて、普段より生徒の興味を高める水泳の授業開展を研究する。 ・部活動部長会での生徒の自発的活動が活性化されている。今後も更なる内容の充実を図っていく。 	